

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

(開発創造)社会に関心を持ち、自分で創意工夫できる
(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができる
(質実剛健)心身ともに充実して飾り気がなく、強くたくましく日々を過ごすことができる
その精神のもと、自分の頭で考えることができる、自分を律することができる、自分の言葉や行動で表現することができる、信頼される生徒を育てていく

2 中期的目標

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

- (1) 日々の授業が、「わかりたい」「できるようになりたい」と思う生徒の思いに応え、そのことで教員への信頼をかちとる場であることから、「教科指導」が最大の「生徒指導」であるとの教員の意識改革とその自覚に裏打ちされた教育活動を展開する
- ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る
 - イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確認、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う
 - ウ 観点別評価の精度を高める
 - ※ 授業アンケート「生徒理解」を 3.25 以上とする(R4 3.27 R5 3.25 R6 3.24)
 - ※ 授業アンケート「生徒意識」を 3.25 以上とする(R4 3.17 R5 3.19 R6 3.22)
- (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力 UP につなげる
- ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる
 - イ 学力向上委員会と情報委員会で連携し、リーディング GIGA ハイスクール事業機器を活用し ICT 教育の更なる推進について検討していくとともに、グループ学習、発表(伝える)能力育成をめざす授業の推進を行っていく
 - ウ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図るため、全校一斉退庁とノークラブデーの徹底を図る
 - ※ 学力向上委員会主導のもと、公開授業・授業見学の増加を図る
 - ※ リーディング GIGA ハイスクール事業を推し進め、ICT を利用した授業、ペアワークやグループ学習の有効活用を図る
 - ※ ストレスチェック職場の健康リスクの結果をもとに、教職員の心身の健康を維持させていく

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む
- ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせ、また遅刻者数を減らす
 - イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る
 - ウ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める
 - ※ 遅刻者数の減少を図り、1500 以下とする (R4 1481 R5 1526 R6 1370)
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定率 85%を維持する(R4 82% R5 81% R6 89%)
 - ※ 部活動加入率を 65%とする(R4 58% R5 59% R6 58%)
 - ※ ニュージーランドと台湾の姉妹校との相互交流、韓国の大学との高大連携による語学研修を継続
 - ※ 地域の国際関連施設と語学を通じた連携を継続
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における国際交流関連の肯定率をコロナ前の 90%に戻す(R4 64% R5 66% R6 67%)
- (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく
- ア 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
 - イ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む
 - ウ 進学講習を組織的に実施する
 - ※ 外部指標のある教材や模擬試験なども活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく
 - ※ 大学進学希望者の現役合格率を 90%以上とする (R4 88% R5 89% R6 89%)
- (3) 安全で安心な学校づくりを行う
- ア 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催)
 - イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、探究や HR の充実を図る
 - ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進し支援の充実を図る
 - エ 生徒にとって学校が安全で安心できる居場所となるために、専門家である SC や SSW 等外部人材の活用を図る
 - ※ 安全で安心な学校づくりを行うための教職員研修を継続
 - ※ 要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

- (1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける
- ア 中学校訪問や中高連絡会において、生徒の出身中学校との連携を強化する
 - イ 住吉区との防災連携を継続し、地域の防災活動と連携していく
 - ウ 学校説明会などで本校の良さを知ってもらう取組みを実施する
 - エ 「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する
 - ※ 学校ホームページを使った情報発信やメールマガジンの発行を継続し、個人情報に留意し、動画配信なども検討する
 - ※ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実
 - ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定率 90%を維持する(R4 88% R5 87% R6 90.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
1 教員相互に高めあう学校	(1) 日々の授業が、「わか りたい」「できるよう になりたい」と思う生徒 の思いに応え、その ことで教員への信頼 をかちとる場であるこ とから、「教科指導」 が最大の「生徒指導」 であるとの教員の意 識改革とその自覚に 裏打ちされた教育活 動を展開する	(1) ・リーディング GIGA ハイスクール研究指定校として 1人1台端末やプロジェクタ等の ICT 機器を活用 し、生徒にとってわかりやすい授業をめざすとも に、生徒が主体的に活動できる能力を育成する ・生徒の学習活動を肯定的に評価し、興味関心を 引き出すため教材や指導法を研究する ・教科・学年が連携して、宿題や予習・復習等の課 題を工夫し、家庭学習の習慣確立と基礎学力の 定着を図る。	(1) ・教職員向け学校教育自己診断 「リーディング GIGA ハイスクール」 関連の肯定率 80%以上〔72%〕 ・生徒向け学校教育自己診断 「1人1台端末を活用している 」 肯定的評価 90%以上を維持〔94.1%〕 ・授業アンケート 「生徒理解」 前年度以上 〔3.24〕 ・授業アンケート 「生徒意識」 前年度以上 〔3.22〕 ・生徒向け学校教育自己診断 「教え方に工夫がありわかりやすい授 業が多い」 前年度以上〔70.2%〕 ・教職員向け学校教育自己診断 「各教科で生徒の実態をふまえ、常に 指導方法・評価方法の工夫・改善を行 っている」 前年度以上〔87.5%〕 ・放課後や自宅等での学習時間、平日 平均 30 分以上	
	(2) 教員同士が高めあう 意識を持ち、モラール の向上を図り、授 業力 UP につなげる	(2) ・教員の ICT 活用を促進するため、活用方法の情 報共有をはかる。 ・研究授業や日常的な授業見学を実施し、授業改 善に取り組む ・教員の健康管理・働き方改革の観点から、学校 部活動方針を遵守し一斉退庁日の実施を徹底す る	(2) ・研究授業・授業見学の実施状況 ・ストレスチェック職場の健康リスクの平 均値 100 以下を維持 〔95〕 ・教員の月平均残業時間を前年度以下 〔24.4 時間〕	

府立阪南高等学校

2 生徒が学校生活を充実させることができる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」を身につけさせ、良き社会人の育成に取り組む (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく (3) 安全で安心な学校づくりを行う	(1) ・遅刻者数を減らす ・ノークラブデーを確立し、教職員だけでなく生徒の負担も軽減しつつ、部活動への入部を奨励し生徒の自立心や社会性を育てる ・国際交流の機会を充実させる (2) ・生徒の進路希望に応じた各種説明会等の実施 ・大学進学希望を実現するために、一般入試まであきらめない意識を持たせる ・進学講習を組織的に実施する (3) ・学校生活の決まりについて納得感のある指導を行い、生徒の学校生活を支援する ・教育相談委員会を充実させ、SC や SSW とともに生徒が相談しやすい環境作りに努める ・人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する ・いじめ・体罰・ハラスメントが0となるように、教職員・生徒の人権意識を高めるとともに、万一事案が発生した場合は組織的に対応する。	(1) ・遅刻者数 1500 名以下を維持 [1370 名] ・部活動入部率を前年度以上 [57.6%] ・生徒向け学校教育自己診断「国際交流関連」 前年度以上 [66.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方を考える機会がある」 前年度以上 [88.8%] (2) ・進路未決定者をなくす ・4年制大学希望者の現役合格率 80%以上 [88.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力が付く」 前年度以上 [79.5%] ・保護者向け学校教育自己診断「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がついている」 前年度以上 [55.1%] (3) ・生徒向け学校教育自己診断「学校生活について先生の指導には納得できる」 前年度以上 [64.1%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校に気軽に相談できる先生がいる」 前年度以上 [64.9%] ・教職員向け学校教育自己診断「生徒の人権を尊重し、日々教育活動を行っている」 90%以上を維持 [91.7%] ・いじめ重大事態・体罰・ハラスメントを0とする	
3 保護者や外部機関と連携する学校	(1) 地域の信頼に応えることのできる学校であり続ける	(1) ・授業をはじめ生徒会活動や部活動、教職員研修等を通じて、地元の学校や自治体等と交流を図る ・中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し生徒の出身中学校との連携を強化する ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施し、生徒会役員やクラブ員が中心となって運営していく ・メールマガジン・学校ブログを通じて、「お知らせ」以外にも生徒の学校生活を情報発信していく ・「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する ・生徒・保護者が「阪南高校に入学させてよかった / してよかった」と思える学校づくりに全教職員が取り組む	(1) ・地域との交流の実施状況 地域との連携 学期に1回 計3回以上 [6回] 地域小中学校との交流 学期に1回 計3回以上 [6回] ・体験入学や学校説明会参加者のアンケート肯定率 90%を維持 [97.8%] ・学校教育自己診断「学校のホームページやメルマガからいろいろ情報提供がある」 保護者向け 80%維持 [80.1%] 生徒向け 90%維持 [90.7%] ・学校教育自己診断「阪南高校に入学させてよかった / してよかった」 保護者向け 90%維持 [90.4%] 生徒向け 80%維持 [80.8%]	